

子宮頸癌に対する化学療法の有用性及び予後因子等についての検討

1. 研究の対象

2000年1月～2017年12月までの間に当院で初回治療を受けられた子宮頸癌の患者さんが対象となります。

2. 研究目的・方法

子宮頸癌の患者さんに対する標準的な治療は手術や放射線療法を中心に施行されており、臨床進行期分類に応じて手術、手術及び放射線療法単独・同時化学放射線療法 (CCRT) を主体とした術後補助療法、もしくは手術ではなく CCRT が施行されることが多いです。術後再発リスクのある患者さんに、プラチナ製剤をキードラッグとした補助化学療法を単独で行う試みが本邦を中心になされていますが、現時点では術後化学療法はまだ有用性が証明されていません。放射線療法の代替として化学療法の有用性が証明されれば、直腸炎、晩発性放射線膀胱炎、リンパ浮腫、直腸腔瘻等の放射線治療による合併症を回避することが可能となるかもしれません。本研究は子宮頸癌に対する化学療法の有用性及び予後因子等について検討するものです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究に用いる情報は通常の診療録に記載される情報を用いるものであり、この研究のために改めて情報を取得することや、侵襲を加えることはありません。

取得する情報の内容は、年齢、進行期分類、治療方法、再発の状況、生命予後、検査データ、副作用等の発生状況等です。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校 産科婦人科学講座 宮本守員

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2

電話：04-2995-1511（内線2363）

FAX：04-2996-5213

研究責任者：

防衛医科大学校病院 産科婦人科学講座 教授

古谷 健一